

令和 7 年度 標準学力分析検査結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2 調査対象の学年

中学校・義務教育学校（後期）全学年

3 調査の内容

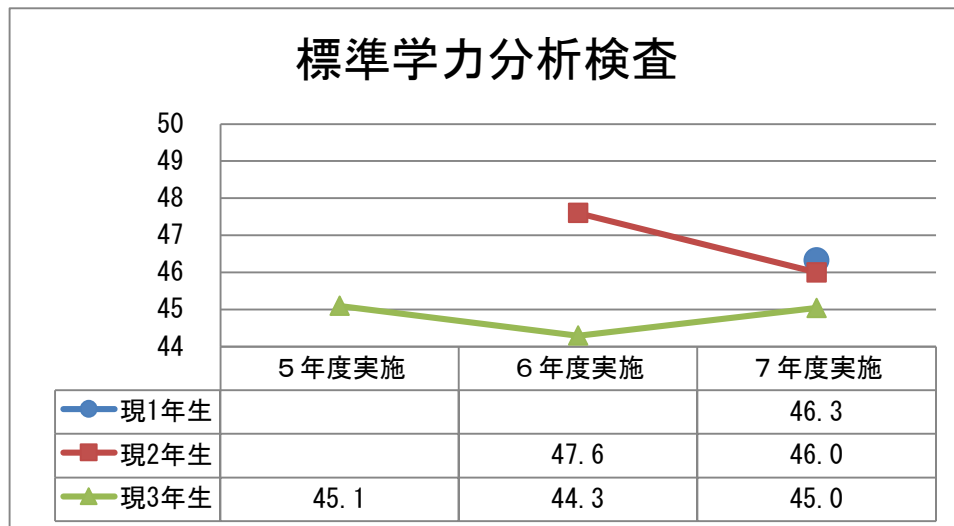
前年度までの学習内容

・全学年（国語・社会・数学・理科・英語）

めざせ！標準偏差値（50）超え！！

	2年度実施	3年度実施	4年度実施	5年度実施	6年度実施	7年度実施
嘉麻市平均	48.6	47.1	46.0	45.5	45.8	45.8
標準偏差との差異	-1.4	-2.9	-4.0	-4.5	-4.2	-4.2

【令和 7 年度結果】



- 標準偏差値（50）を超えることを目指して取り組んできましたが、平成31（令和元）年度以降、本市の平均偏差値は下降傾向にありました。令和6年度に、わずか0.3Pですが、平成31年度以降はじめて伸びが見られ、本年度もその数値を維持しています。しかし、標準偏差値（50）から4.2P離れた状況です。また、標準学力分析検査の各学年の推移を見ると、「1年生（7年生）から2年生（8年生）に数値が下降し、2年生（8年生）から3年生（9年生）に数値が上昇している」という例年同様の傾向が見られます。

【成果】

- 5教科平均では、目標値を達成することができていませんが、1年生（7年生）の時点で標準偏差値を超えている学校が1校、2、3年生（8、9年生）の時点で、特定の学年の教科（国語科、社会科）において目標値を超えている学校が1校ありました。これは、小学校段階における学力向上策が有効であったり、教科における授業改善が図られたりした結果だと考えます。

【課題】

- 一人一人に基礎・基本の確実な定着を図るための授業や学力向上の取組について推進していく必要があります。
- 小・中・義務教育学校における平日及び週末の家庭学習時間ゼロ時間の児童生徒が全国平均より多く、基礎・基本の定着を図る家庭学習の習慣化に課題があります。

【改善策】

- 単元テスト導入により短いスパンにて子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、その単元における基礎的・基本的な内容を確実に身につかせていくとともに、授業改善を図っていきます。
- 家庭学習の習慣化と効果的な家庭学習の設定について改善を図っていきます。
- 上記の2点について、嘉麻市学力検証委員会において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、充実を図っていきます。